

このニュースは全職員、共同組織に回覧してください

東日本大震災 京都民医連支援ニュース

京都民医連対策本部 NO6 2011年3月15日

無料低額診療の患者さんも「何かしたい」と義捐金カンパ

- 13日、上賀茂診でも朝外来からカンパ箱の設置。先日、「年金等の収入がなく息子の仕送りだけで生活されている」と無料低額診療の相談に乗った患者さんが、何かしたいという想いで、なけなしの1000円を募金箱に入れてくれました。上賀茂のHPでも募金の呼びかけを行っています。
- 京都協立病院では、3月14日、午前中に大震災院内対策会議を開催しました。小林院長を本部長に対策本部を設置。義捐金は病院から30万円、全職員には部署別に義捐金袋を回し現在集めています。事務局だけで8000円集まっています。また毛布やマスクなど物資も集まっています。
- 京都ファーマは、3月14日、義援金20万円を振り込んでいます。
- 京都シグマプランも、14日、義援金20万円を振り込みました。
- 京都民医連中央病院は14日、吉中院長を本部長に対策本部を立ち上げ。院長名で「東日本大震災にあたり、患者さん・ご家族の皆さんへのお願い」の訴えを、院内に掲示。職員からの義捐金が、第一次として、401,302円が集まっています。あと半分の職場の義捐金を集約中です。
- 保健会事務局分8万4千円、振込済み
- 信和会は14日に、門理事長を本部長とする東日本大震災支援対策本部を確立。14日、昼休みに北館食堂で病院と民医労東支部共催で緊急職員集会在開催され、職員・友の会130名が参加。門院長より民医連の支援活動の状況報告と当面の行動が提起されました。集会では支援志願者や家族が被災した職員が発言。こころ一つに支援活動に全力を上げることを確認しています。

東日本大震災にあたり、患者・ご家族の皆さんへのお願い
 2011年3月14日
 京都民医連対策本部
 京都府京都市中京区 066 700 200

東日本大震災にあたり、患者さん・ご家族の皆さんへのお願い
 京都民医連中央病院は、3月14日、午前中に大震災院内対策会議を開催しました。小林院長を本部長に対策本部を設置。義捐金は病院から30万円、全職員には部署別に義捐金袋を回し現在集めています。事務局だけで8000円集まっています。また毛布やマスクなど物資も集まっています。

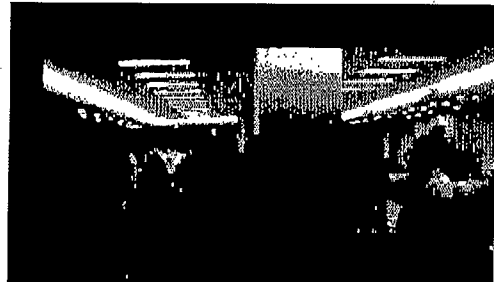
吉中院長の訴えが出されました



130名が集まった第二中央エリアの緊急支援集會

酒井看護師からの支援報告

「本日（14日）夕方5時から7時半まで多賀城文化センターで、医師4名、看護師5名、事務等5名で、医療相談をしました。そこは2,300人の被災された方がおられますが約100人の方の診察や相談をしました。殆どが津波の被害にあわれた方々で家を失っていたり、帰る場所のない人達でした。38~39度の熱で、風邪や喘息、腰痛、外傷等々、また定期薬がなくなって来られる方がたくさんおられます。小さな子供からお年寄りまでセンターの部屋や廊下のそこらじゅうに毛布を敷いて休んでおられます。この先の事を考えると胸が痛みます。」



30名の支援医師を先頭に、100名を超える支援者：坂総合病院

「今日（15日）は赤木さんと外来ブースで救急患者対応に入りました。別のブースで重症の方をみているので、私達のブースは救急でも比較的軽い方で、食事や水分がとれず、脱水になったり、薬がのめず血圧が上がってしんどくなったりという方々でしたが、家が流れた人や肉親に連絡が取れない人等重い事情を抱えた人が殆どです。避難所では食事が満足に出ず、おにぎりとお湯を職員からもらいベッドに座って「美味しい」と食べる姿はなんとも言えない光景でした。その方も家を亡くした方でした。午後から急遽21時~9時のシフトになり、今から寝ます」。

また藤村さんも、患者さんや支援物資の搬入の誘導や地域の避難所訪問などを精力的に行っています。